

## 「みんなで調べる中海流入河川調査」報告書

学 校 名 (団体名)	安来市立広瀬小学校
連 絡 先	TEL:0854-32-2388 FAX:0854-32-2399 E-Mail:hirose.esc@city.yasugi.shimane.jp
調査参加者	参加者：34名 指導者名：桑原 弘道、長 和博、杉谷 健太、原まゆ子、倉敷洋子

単元名：『富田川博士になろう』（総合的な学習の時間）

調査河川名：富田川（飯梨川）

調査地点：道の駅「広瀬・富田城」（富田川河川敷）

5月のところで、総合的な学習の話をする際、児童から富田川のことを調べたいという言葉が出てきた。本校では、毎年、4年生が富田川の学習に取り組んでいる。これまでの先輩が作成した学習成果物を見てきた児童にとって、自分たちが住んでいる広瀬を流れる富田川は魅力的なものであり、調べてみたいという思いが強かった。児童からは、富田川の生き物、富田川の石、富田川のきれいさについて調べたいという意見が出た。ただ、どのように調べていけばよいのかということについては、児童の中でも不明瞭な部分が多く、専門家の方々に教えてもらおうということで調査に入った。

調査は6月から始めた。桑原弘道氏を迎え、透視度計の使い方、CODパックテストのやり方、水生昆虫の採り方、指標生物の見分け方等の方法を教えてもらった。川のきれいさについて、曖昧な基準しかなかった児童にとって、数値という具体的な基準を知ることができたのは、富田川の水質を知る上でも大きな意味があった。そして、ここで改めて認識できたことは、富田川は、とてもきれいな川であるということだった。調査について、具体的な方法が分かり、次の調査では、それぞれに調べる課題をもち、臨むこととなった。

7月にも桑原氏と調査に出かけた。まずは、6月同様、透視度調査、CODパックテスト、指標生物調査に取り組んだ。2回目の調査ということもあり、児童も少し慣れた様子が見られ、指標生物調査も2回行うことができた。複数回実施できたことにより、6月の調査結果との比較、富田川のきれいさについて、更に実感できた。また、自分たちが住んでいる広瀬に富田川というきれいな川があることを嬉しく感じる児童も多かった。水質調査後、グループに分かれて、それぞれの課題に対する調査・観察を行った。

9月には、「川探検拡大版」と題し、バスを2台チャーターし、富田川の上流から中海までの5地点を調査・観察した。指導者も桑原氏の他に、長和博氏にも来ていただき、水質・生き物・石や砂・川や海のことについて指導・助言をいただいた。いつもの調査地点は中流なので、中流と他地点との比較で、色々な違いがあることが分かった。ここでも、水質調査後、グループに分かれて、それぞれの課題に対する調査を行った。9月の調査で児童は、富田川の生き物・石や砂・きれいさについて、複数の地点で調査・観察したことになる。調査ごとに、富田川のきれいさを実感していったことはもちろん、多くの生き物や石・砂を調査・観察し、児童からは、富田川のきれいさを守りたい、生き物を大切にしたいという思いが強くなってきた。そして、富田川（飯梨川）の広瀬部分を大切にすることはもちろん、広瀬部分以外にも目を向けていくことも大切と考えるようになった。

10月にも桑原氏と調査に出かけた。これまでと同様、透視度調査、CODパックテスト、指標生物調査に取り組み、水質調査後、グループに分かれて、それぞれの課題に対する調査・観察を行った。この調査をもって調査・観察が終わった。前回の調査以後、富田川の環境を守りたいという思いが強くなってきた児童だが、川は、色々なところで別の川とつながっているということもあり、富田川だけでなく、そもそも川の生き物や砂・石について調べたいという意見が出てきた。そこで、学校司書の先生に、児童の課題に関連する図書資料を集めてもらい、

図書資料による調べ学習を行った。例えば、生き物を調べるグループは、富田川では見つからなかった川の生き物を知ることができ、川そのものを大切にしたいという思いを更に強くしていった。4回の富田川調査における各グループの活動は以下の通りである。

#### 【富田川の生き物を調べる…3グループ】

4回の調査において、指標生物を中心に調査・観察をしていった。9月の「川探検拡大版」では、上流から下流にかけて、指標生物を見ていった。また、指標生物以外にも、見つかった生き物については写真を撮り、桑原氏に尋ねたり、図書資料で調べたりした。更に、富田川も含め、川そのものに視点を広げ、他にはどのような生き物がいるのかということについて、図書資料で調べ、まとめていった。

#### 【富田川の石や砂について調べる…2グループ】

中流（富田川河川敷）において、どのような石や砂があるのかを探していった。石の形、色や大きさ等、様々な視点で観察していった。9月の「川探検拡大版」では、上流から下流にかけて、石の大きさや形を調べた。石はだんだん小さくなって、丸みを帯びてくることに気づいた。富田川（飯梨川）の特色である「虫食い隕石」や、砂のもとになる「きなこぼたもち」についてまとめることができた。また、富田川も含め、川そのものに視点を広げ、他にはどのような石や砂があり、どのような特徴があるのかについて、図書資料で調べ、まとめていった。

#### 【富田川のきれいな川について調べる…1グループ】

中流（富田川河川敷）において、透視度調査、CODパックテスト、指標生物調査を行う際、学級の中心となって取り組んだ。9月の「川探検拡大版」では、上流から中海までの5地点を調査した。それぞれの調査の結果を表にまとめていくだけでなく、指標生物以外に、きれいな川に生息する生き物を図書資料を使い、まとめていった。

11月のところで、各グループが課題について調べたことを模造紙にまとめていった。そして、グループごとにまとめたことを発表し、全員で富田川、そして川そのものについて調べたことを見ていった。発表後、児童から自発的に広瀬を流れるきれいな富田川、そして川そのものの環境を守るために、自分たちにできることは何だろうという話が出てきた。そして、12月のところで、何ができるのかを考え、3学期に具体的な計画・準備、そして実際に活動しようという話になっている。現段階では、児童から以下のような考えが出ている。

#### ① 富田川をきれいにする活動

- ・川周辺のごみ拾い・広瀬の町のごみ拾い  
(川の近くでなくても、用水路等、結果的に川に流れてしまう可能性があることから、町をきれいにすることが、川そのものをきれいにすることにもつながると考えた。)

#### ② 富田川の良さ・環境を守ることを伝える活動

- (富田川の良さを伝えることで、川の環境を守る意識が高くなると考えた。)
- ・11月に各グループが模造紙にまとめたものを、これから川の学習に取り組むであろう下学年に向けて発表する。
- ・自分たちが学習したことを新聞にまとめ、保護者へ配布する。
- ・有線放送で、地域の方にも呼びかける。

#### ③ 富田川も含め、川そのものの環境を守ることを伝える活動

- ・自分たちが学習したこと、川の環境を守ることの大切さを文章にまとめ、新聞社に投稿する。

あくまで予定の段階ではあるが、上記の活動それぞれについて、中心となって活動するグループを決め、計画・準備等を進めていきたいと考えている。

今回、この富田川を中心とした学習を通して、児童の中において、明らかに変化が見られるところがあった。初めは、とにかく富田川について調べるという意識が強かった児童も、調査・観察を通して、川そのものの環境について調べたい、そして、その環境を守りたいというように、視点が広がっていったということだ。この視点や思いは、環境を守ること、地域に愛着をもつこと等、これからの時代を生きていく児童にとって、大きな支えになってくるように思う。富田川の学習を通して見られた児童の成長に、指導者としても喜びを感じた。

様式1 (続き)

## みんなで調べる中海流入河川調査 調査結果表

学校名： 安来市立広瀬小学校

---

川の名前	富田川 (飯梨川)
調査地点名	道の駅「広瀬・富田城」(富田川河川敷)

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
調査日時	6月10日 9:30	7月8日 9:15	9月12日 15:00	10月3日 9:15	
天候 (当日)	<もり	<もり	<もり	晴れ	
天候 (前日)	雨	<もり	雨	<もり	
気温 (°C)	20°C	19°C	25°C	29°C	
水温 (°C)	19°C	22°C	24°C	22°C	
COD (mg/l)	2	1	2	2	
透視度 (cm)	100cm以上	100cm以上	86cm	100cm以上	
その他項目					